

高校生の課外活動（部活動）に関する意識の比較研究 —生徒の所属コース別の意識の違いに着目して—

松岡誠弥（生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）
指導教員 海老島均

キーワード：高校生 意識 部活動

1. 緒言

近年、学校ごとに総合コース、特進コースといったコース分けをしている学校も少なくない。その中でも総合コース、特進コースでの部活動に対する意識の違いはある。その理由として総合コースと準特進、特進コースの部活動に携わる時間、また指導時間にも関係している。

そこで本研究では部活動の存在意義、問題性について明らかにし、高校生を対象とし、コース別での部活動への意識、考え方がどのように異なるのか検討すること目的とした。

2. 研究方法

兵庫県A高等学校の総合コース、準特進コース、特進コースの3つのコースを対象にアンケート調査を行う（準特進、特進コースは以下、特進コースとする）。アンケート回答者は120名である。アンケート内容は主に勉強、進路先への影響が部活動とどのように関係しているかを調査する。アンケートのデータ結果から総合コースと特進コースの部活動に対する意識の違いを比較し考察する。

3. 結果と考察

部活動が勉強に良い影響を与えているかという質問に対して総合コースでは53%の者が良い影響を与えていると回答した。その多くは成績不良では練習ができないと回答している。特

進コースでは35%の者しか良い影響を与えていると回答していない。特進コースでは勉強と部活動は相互関係がないと答える者もいた。

部活動と進路先の関係は総合コースでは54%の者が関係していると回答し、内申点や学校側からの評価を上げることで進学しやすくなると回答した者が多くかった。特進コースでは部活動と進路先は無関係と回答するものが多く、中には進路先は学業のみによって決めるものであると回答した者もいた。

結果から、総合コースと特進コースでは部活動との関係性がコースによって違いがあり、それは、学校側のコースごとへの対応から生まれているのではないかと考えた。

4. まとめ

現代の高校生の部活動に対するコースごとの意識の違いを一律化するためには学校の方針そのものを改善することが重要であると感じた。そのためには総合コースと特進コースの部活動の時間、指導の時間を合わせることで勉強をする環境を見直すことで意識の違いが変わるのではないかと考えた。

参考文献

- ・森川貞夫, 遠藤節昭, (2006) : 『必携、スポーツ部活動ハンドブック』, 大修館
- ・杉田洋, (2009) : 『よりよい人間関係を築く—特別活動—』, 図書文化